

5月17日、こころのビタミンのイベントをリモートで開催

新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年4月11日に予定されていた「ハートフルファミリーの集い」は中止を余儀なくされました。「バングラデシュ20年の軌跡と奇跡」をテーマにその準備がかなり進んでおりましたので、急遽、5月17日に、ビジョンダイナミックス研究所の「心理トレーナー養成コース」の研修生とこころのビタミンの理事、約50名を対象に、リモートでその内容を伝えることにいたしました。

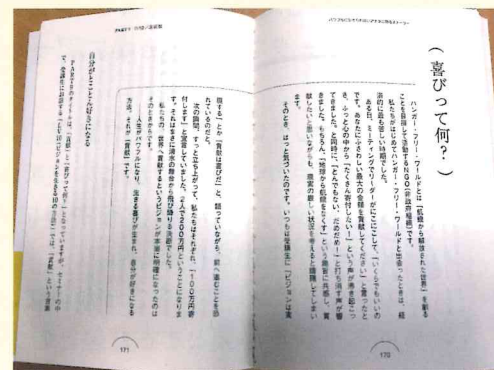
栗原弘美代表理事、栗原英彰理事がメインスピーカーとなり、こころのビタミン研究所発足にまつわる話や「飢饉と慢性的飢餓の区別」の映像、バングラデシュの軌跡の発展を伝えるミトンからのメッセージ（P1 参照）など濃密な内容が伝えられました。

栗原夫妻は、1999年に初めてバングラデシュを訪れた時、スラムに住む人々に「ビジョンは何ですか？」と問いかけたこと、訪れたカリガンジを「ビジョンの村」にしようと決意したこと。そして、「こころのビタミン研究所」命名の由来は、栗原弘美代表理事と栗原英彰理事の共著「こころのビタミン」であり、その9項目に「貢献」について書かれていることなどを熱く語りました。

急遽開催を決定し、リモートでの実験的試みでしたが、磯田江利子さん、横井恵さんはじめ皆様のご協力により素晴らしいイベントとなりました。



バングラデシュのスラムにて(1999年)



著書「こころのビタミン」part9『貢献』について

ハートフルファミリーのみなさんへ

去年は、どなたにとっても本当に大変な1年だったのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの影響もあり、国内では自殺者が急増しています。警察庁の発表では2020年10月の自殺者数は、前年同月比で39.9%増加しており、特に女性は82.6%も増えています。このコロナ禍でさらに孤立し、心身ともに苦しい状況を抱えていらっしゃる方が今もたくさんいらっしゃると思うと胸が痛みます。

ハートフルファミリー会員のみなさんは貢献の意欲にあ

ふれた方々です。そこでお願ひがあります。もし、ご自分の近くに困っている人々がいたら、まずは「OSK(おせっかい精神)」＝こころのビタミン研究所の理念を思い出していただき、お声掛けいただけませんか？ 私たちも、会員非会員の枠を超えて、こころの悩みを抱えている人に手を差し伸べる方法を模索しています。

この困難な時代を、つながることで少しでも楽になれる人たちが増えていったらと、心から願っております。

理事一同

こころのビタミン研究所の活動にご支援お願いいたします！

→ご寄付はホームページからお申込みいただけます

【振込先】 郵便局：ゆうちょ銀行 記号10100 番号77011271
銀行口座：三井住友銀行 三田通支店 普通7852939
【口座名(郵便局・銀行共)】 特定非営利活動法人こころのビタミン研究所



〒108-0073
東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F
TEL 03-5765-1956 FAX 03-5765-1961
E-mail info@cocoro-v.org
URL <http://www.cocoro-v.org>
ブログ <http://ameblo.jp/cocoro-v>
Facebook 認定NPO法人こころのビタミン研究所

ビタミンニュース NO.27 2021年2月号
発行日/2021年2月1日 発行/認定NPO法人 こころのビタミン研究所

Vitamin News

ビタミンニュース NO.27 2021年2月号



バングラデシュから

バングラデシュから愛と感謝をこめて



カリガンジに設立されたコミュニティ病院はバングラデシュ初の協同組合病院です



バングラデシュで開催された栗原弘美代表理事のセミナー



アタウル・ラーマン・ミトン (FHWバングラデシュ事務局長)

2000年に創作したビジョンが実現しました！これは奇跡です！

私は2000年に栗原英彰さん、弘美さんと共に「バングラデシュ独立50周年となる2021年までに、バングラデシュの飢餓を終わらせる」というビジョンを作りました。

当時わが国はアジアの最貧国、乳児死亡率は70(1000人の出生に対する1歳未満の死亡数。乳児死亡率50以上が飢餓存在国の目安)で、私のビジョンは実現不可能な単なる夢にすぎませんでした。ところが2021年を迎えた今、なんとこの壮大なビジョンが現実のものとなったのです！これはとんでもない奇跡であり、大きな喜びです！

私は、まず弘美先生のリーダーシップ、貢献に心から感謝したいと思います。

「こころのビタミン研究所」は2001年の設立当初から私の活動を支援してくださり、弘美先生は、2003年から2015年まで13年に渡り、毎年首都ダッカでセミナーを開催してくださいました。私はこのセミナーにハンガー・フリー・ワールドの関係者だけでなく、国会議員、大学教授、社会活動家、ジャーナリストなど影響力のある人々を招待しました。その中には後にハシナ首相の顧問となったチョードリー氏もいました。

弘美先生は、リーダーたちが人々を成功に導くことができるよう力づけ、そのビジョンを実現するために協力して働くよう、インスピレーションを与えました。

私は貧しい人々のための学校や女性の自立などのプロジェクトを実施すると同時に、2015年に「『ビジョン2021』フォーラム」を立ち上げ、政府への政策提言、ワークショップ、ポスター作成、新聞への寄稿など、ビジョン達成のために懸

命に活動しました。

そして2010年、ハシナ首相は国の政策として「ビジョン2021」を掲げ、独立50周年までに中所得国となることを目標としたのです。途上国から中所得国になるための目標を達成することは、即ちわが国が飢餓を終わらせることを意味しています。

弘美先生のセミナーが追い風になり、私のビジョンは国のビジョンとなりました。経済は急成長し、GDP成長率は南アジア最高の8.2%。一人当たりのGDPは2001年には412ドルでしたが、2019年には1905ドルと5倍になり、乳児死亡率は24まで低下しました。今や、わが国は中所得国となり、飢餓を終わらせたのです！

私の次なるビジョンは、幸せなバングラデシュ、平和な世界を築くために、母親のために働くこと。私はこれを「ハッピーマザー プロジェクト」と名付けました。

わが国は未だに男尊女卑の社会で、女性が貧困に陥っています。女の子が若年結婚を強いられ、多くの母親が栄養不足や適切な医療を受けられず死に瀕しており、助産師による安全な出産も保証されません。そこで私たちは、カリガンジにコミュニティ病院を作りました。580人の会員のほとんどが女性で、多くが弘美先生のセミナーの受講生です。彼女たちは決して豊かではありませんが、病院のために資金を提供しています。

これらの達成は、こころのビタミンのサポートがあってこそ実現できたことです。弘美先生とこころのビタミンの皆さまに、心からの感謝とお祝いを申し上げます。

■平成31年度 収支報告 (平成31年4月1日～令和2年3月31日 単位:円)

収入の部		支出の部	
会費収入	668,000	勉強会事業	125,584
勉強会事業	40,000	相談事業	196,820
相談事業	241,820		
海外支援事業		海外支援事業	
バングラデシュ	70,000	バングラデシュ	1,451,097
ハイチ	560,487	ハイチ	8,418,771
東日本大震災支援	0	東日本大震災支援	118,000
熊本地震支援	0	熊本地震支援	76,000
自然災害支援事業	1,500	自然災害支援事業	48,200
子ども支援	39,000	子ども支援	1,215,842
寄付金	16,534,838	あしなが育英会へ寄付	180,000
		喪失回復プログラム	251,260
		会報及び出版物発行	330,906
受取利息	145	管理費、諸経費	4,338,045
当期収入	18,155,790	当期支出	16,750,525
前期繰越金	12,137,058	次期繰越金	13,542,323
合計	30,292,848	合計	30,292,848

平成31年度通常総会が6月4日に開催され、平成31年度決算報告及び令和2年度事業計画は満場一致で承認されました。

ハイチの医療保健センターも 新型コロナウイルスへの 対応をしています。

ハイチでは、昨年3月中旬に政府が緊急事態宣言を出し、夜間の外出制限などがされましたが、6月初旬には感染のピークを過ぎ、空港も稼働し、8月からは学校も徐々に再開して、感染状況は落ち着いています。

医療保健センターでは、新型コロナウイルスの拡散を防ぐため、ソーシャルディスタンスを守り、防護服の着用や頻繁な手洗い、手指の消毒など、厳密な対策をしました。新型コロナウイルス患者も数人受け入れ、また国境センターを併設する近くの病院に紹介もしています。感染に対し無防備な人々への大規模な予防キャンペーンも行いました。

職業訓練センターは、屋根の補強工事が完了し、教室に電気の引き込み工事を開始したところです。窓枠やガラス、鉄製のドアも発注しました。また、医療保健センターの裏地に倉庫も建設を始めています。

世界的なパンデミックの中で、私たちの活動はこころのビタミンの皆さんの支援と貢献に勇気づけられています。皆さんの支援が、この状況下で多くの人の命を助け、貧しい人々の生活をより良いものにしています。心から感謝しています。

IAH代表 センティル・ラゲル



防護用ガウンを着る看護師



職業訓練校
屋根の補強工事が完了しました



オンライン子育てママサロンの様子



代表の長井敦子さん

「みんなの助産院@埼玉」に支援します。

2020年3月から新型コロナウイルス感染症の影響で、全国で多くの両親学級が中止になり、出産前に一般的な妊娠・出産の流れなどを学ぶ機会が失われたことで、多くの妊婦さんが不安を抱える状況が起こっていました。

埼玉県で助産師として活動しているハートフルファミリー会員の長井敦子さんは埼玉県内の助産師有志で「みんなの助産院@埼玉」を発足。出産を控える妊婦さんや、出産後の埼玉県に住むお母さんを対象に、オンラインで両親学級や子育てママサロンなどを開催しています。

こころのビタミン研究所では、困っている母親父親のためにいち早く活動を開始したこの活動に、国内の子ども支援活動の一環として支援することを決定しました。

オンラインの子育てママサロンでは、様々な育児相談や、授乳や離乳食などについて専門家に相談ができ安心したという声や、母親同士のいろいろな悩みを聞くことができ「悩んでいるのは私だけじゃないと思えた」という声など、産後出かけることが難しい母親にとっての精神的に安心できる場にもなっています。

昨年6月からは対面での両親学級が再開した行政や病院などもあり、オンラインでの両親学級開催は一旦中止していますが、今後も必要に沿っていつでも再開できるよう準備しています。

妊娠・出産・産後の親子の実情と気持ちに寄り添う「みんなの助産院@埼玉」の活動をこころのビタミンは支援していきます。



支援先から～てらこや新都心

こころのビタミン研究所が支援する各団体でも、新型コロナウイルスの拡大の中でさまざまな努力と工夫を重ねています。
さいたま市で地域の親子を支援する「てらこや新都心」の活動についてご紹介します。



さいたま市では、2020年3月から6月まで学校の休校、分散授業などの措置が取られました。てらこや新都心では市の対応方針に沿いながら、検温カードの提出や毎時間ごとの換気、子どもたちがよく触れる箇所や手指の定期的な消毒、マスク・水筒・マイコップなどを持参させるなどの他、出来るかぎりの感染防止策を行いながら、この間平日の10時から18時まで、連日施設を開放し、共稼ぎや在宅ワークなどで行き場に困った子どもたちを受け入れました。

毎月開催していた「てらこや食堂」(子ども食堂)は、三密防止の観点から開催中止となりましたが、中止になった学校給食食材などの寄付を中心に、食材配布(フードパントリー)が実施されました。

このフードパントリーをきっかけに、ひとり親家族など物質的な支援を必要とする方達とのつながりが生まれました。

また、お母さんたちの中には、てらこや新都心の玄関に入った途端に緊張がとけて泣き出される方や、思いを話し涙を流すことで気持ちを切り替え日常生活に戻れる



フードパントリーで配布された、
寄付された牛肉で作った焼肉丼



お手製のフェイスシールドをつけて
水鉄砲大会で遊ぶ子どもたち

方が、何人もおられました。具体的な問題解決に向けて弁護士を紹介するケースも数件ありました。

新型コロナウイルスの流行の中で、「とにかく『居場所』を開け続ける、という思いで進んできた一年だった」と語る代表の大場明美さん。利用する方々の心に触れる機会が増え、大人や子どもを問わず、緊張をといて安心できる家族のような居場所が出来てきた、と話しています。

こころのビタミン研究所からの今年度の寄付金60万円は、文具の購入などの活動費や、団体の安定した運営のため大切に活用され、大変感謝されています。

てらこや新都心 <http://terakoya-labo.org/>

ファミリー紹介

こころのビタミンには、活動を広げ、支えてくれる多くのファミリーがいます。
今回は香港のKelvin Hoさんをご紹介します。

ビデオメッセージを
送ってくれたケルビンさん



ケルビンさんは2014年以降、毎年こころのビタミンの活動に多額の寄付を下さっています。年収から一定の割合を寄付すると宣言し、その割合は年々増加しています。近年香港は混乱が続く状況ですが、それでも多額の寄付を継続してくださる理由について伺いました。

こんにちはケルビンです。

なぜこんな莫大な額の寄付が出来るか?と聞かれるのですが、お金をはじめ、私の肉体、仕事、あらゆる私の所有物は私のものではなく、全て神様から託されたものだと思っています。ですから、それを愛の道具としてどうやって兄妹姉妹の幸せのために使うかということを、私は毎日考えています。でもそのおかげで私の人生は完全に変わり、自分の家族、会社、パートナーシップも全て、奇跡のようなことばかりが起きている毎日です。

実際この5年間は色々なことがあり、特に香港は今大変なのですが、私の仕事、会社はほとんど影響を受けていない状態です。本当に不思議なのですが、かえっていろんな素晴らしいアイデアを神様からいただき、どんどん新しいものを開発して実施しています。

これからも頑張ってたくさんの収入を得て、全て寄付したいと思っています。

新型コロナウイルスが収束して、チャンスがあれば日本のセミナーにぜひ参加して、この体験をもう一度直接お話しできたらと思っています。

